α世代が開く新しい世界

カルメル修道会　中川博道

現在、中学校・高等校に在学する人々は、「α（アルファ）世代」と呼ばれる、「完全デジタルネイティブ世代」です。2010 年以降に生まれた史上最多のこの世代は、生まれた時からスマートフォンやタブレットに囲まれ、AI やデジタルサービスを自然に使いこなすといわれ、一般的に、従来の世代とは根本的に異なる情報処理能力や価値観を身につけているといわれます。

このα世代が、テクノロジーの進化による大変革期を牽引していく中核であり続けるといわれています。労働・科学技術・政治・安全保障や倫理・宗教哲学などあらゆる分野が根底から見直されていく時代、人間の生き方そのものが、「仕事中心の人生」から「創造・関係性・ケア中心の人生」へと移行していく中で、彼らは既に、教育の場の根本的変化を体験しはじめています。教育の中心は、知的伝達から、人格形成・倫理・共同体性・創造性へ移り始めています。

このような現実に直面している人類の、これからの歩みを見据え、教皇レオ１４世は、人工知能の時代を責任ある形で歩む方法を見究めるために、回勅『人間の偉大さ――AI 時代における人格の擁護』(2026 年 5 月）を発布され、その冒頭で次のように提示しておられます。

「神が造られた偉大な人間は、今日、決定的な選択を前にしています。新たなバベルの塔を建てるか、神が人類とともに住む町を築くかという選択です。」（同回勅１）

「バベルの塔の物語」（創世記 11・4）とは、「弱者を犠牲にする利益崇拝、差異を均一化する画一性、そして単一の言語――デジタル言語であっても――が、あらゆるもの、人格さえも、データとパフォーマンスに変換できる」（10）と主張する世界を意味します。

一方、「神が人類とともに住む町」とは、一人の人物の主導ではなく、あらゆる人々の共同責任によって再生され、神を中心とした、まず人間関係を再構築していく世界です。

その生き方は、共通善を構築するために、何よりもまず、真理・秩序・平和・愛の源なる神との確固たる関係の上に共同体を築き、第二に、人間の限界や弱さを、修正すべき誤りとは見なさずに受け容れ、第三に、誰もが繁栄できる世界を築くために、責任と勇気を共有することが必要となります。そして、 第四として、共通善を構築するためには、神を愛し、隣人を自分のように愛する福音的な在り方が必要となります。

AI 時代を歩む道は、新しく人類社会を建設しなおすことなのだと気付かされます。